XIANG TAO

チャイニーズティーマスター 小田 純也による
世界 中国茶紀行
Vol.15　台湾紅茶の故郷

今回は台湾の紅茶の故郷についてご紹介します。

舞台となるのは台湾中部に位置する日月潭（にちげつたん）の魚池郷。

「日月潭」とは日本統治時代（1895-1945）に作られた湖で、湖面は台湾でも最大級。夕日が特に美しいと定評がある台湾の人気観光スポットです。

そしてこの地は「台湾紅茶の守護者」として、現代に語り継がれる日本人 新井耕吉郎技師（1904-1947）の功績の地でもあります。

“日東紅茶” 国産ブランドの誕生

これまで烏龍茶づくりを行っていた台湾に、紅茶の栽培を奨励したのは日本の統治時代になってからのこと。日本や欧米に輸出され外貨獲得に成功しました。

写真左をご覧ください。こちらは紅茶づくりに従事していた当時の日本人宿舎です。

建物は檜が主材料で建てられた日本式建築で、瓦造りの屋根が日本古風な外観、内部には竹筋が採用されており、室内が適度に乾燥する造りになっています。

1909 年（明治 42 年）

三井合名会社（のちの三井農林株式会社）が設立。台湾北部の山間に茶園と製茶工場を開設する。

1927 年（昭和 2 年）

三井紅茶（のちの日東紅茶）は「ダージリンに似た優良品」として、ロンドンなど海外市場で高い評価を受ける。

1928 年（昭和 3 年）

「Formosa black tea」の名でニューヨーク・ロンドンに出荷し、輸出商品として注目される。

1936 年（昭和 11 年）

台湾総督府中央研究所魚池紅茶試験支所が創設される。

インドからアッサム種（阿薩姐）を輸入。紅茶づくりが盛んになる。（現在の茶業改良所魚池分場）

一般市民にとって「高嶺の花だった舶来紅茶」が、国産ブランドの誕生によって、身近に午後のティータイムを楽しむことができるようになりました。

インドからアッサム種（阿薩姐）を輸入

新井耕吉郎は日本・群馬県の出身で、台湾総督府の中央研究所の平鎮茶葉試験支所に勤めていました。

彼は新たに紅茶栽培に適した土地を探すため、台湾全土の土壌や地理的環境、気候の調査、製茶品質の評価選定に参画します。

ついに海抜 800m前後の日月潭ほとりの盆地一帯が紅茶の栽培に適していると確信し、ここに紅茶試験支所の設置を提案します。

＊写真

中央の山は「小さな富士山」と呼ばれていたそうです。

紅茶試験支所は、当時のスリランカの紅茶工場がモデルとなりました。

建物はあらゆる面で工夫が施されています。

製茶室の大きな窓は 90℃に回転し、空気を大量に取り込める設計になっています。また、茶葉鑑定室の窓には角度がついており、直射日光が入らないように北側に設置されています。

最盛期には、台湾紅茶の生産量は年間約 633 万トン、うち 580 万トンが輸出されていました。工場は 24 時間 3 交代制で稼働していたといいます。

台湾紅茶の守護者

1941 年、戦争が勃発。台湾の経済は悪化し、紅茶試験支所は徴兵によって労働力を欠き、資金は窮迫、食糧不足を回避するため、茶園を菜園にし食糧の増産を求められましたが、支所長の新井耕吉郎は紅茶の研究を推し進め茶園を守り抜きました。

終戦後、彼の後任は現地の技師と地元の農家によって引き継がれます。

彼は日本に引き上げず台湾に留まり、技術者として手伝い働きながら、台湾紅茶産業の発展に大きく貢献します。

現在、台湾の紅茶は新井耕吉郎の思いが礎となり、「台茶 7 号」「台茶 8 号」「台茶 18 号（紅玉）」「台茶 21 号（紅韻）」「台茶 23 号（祁韻）」と個性のある品種が誕生し、現在に受け継がれています。

皆様も日本と関わりの深い台湾の紅茶を是非味わってみてはいかがでしょうか。

撮影 小田純也

中国料理 香桃

レストランのご予約・お問い合わせ

TEL 06-6343-7020（直通）

営業時間 10:00 a.m. ～ 7:00 p.m.

rc.osarz.restaurant.rsv@ritzcarlton.com

ザ・リッツ・カールトン大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 5 番 25 号